

インドの聖典シリーズ3 『ウパニシャッド』

ヴェーダは、インドの最も古く、また最も重要な聖典である。全ての正統なヒンドゥ教徒は、彼らの信仰の源泉と、その最高の書物としての権威とをヴェーダに認める。

ヴェーダは全部で四つある。すなわち、リグ・ヴェーダ、サーマ・ヴェーダ、ヤジュル・ヴェーダ、そしてアタルヴァ・ヴェーダである。それらはそれぞれ二つの部分に分けられている。すなわち、祭式[行為]部と知識部である。前者は主に讃歌、供犠や祭式に関する指示や、それらの遂行の決まりから成り立っている。後者は、神の知識、宗教的な真実の最高の局面に関わるものであり、ウパニシャッドと呼ばれる。

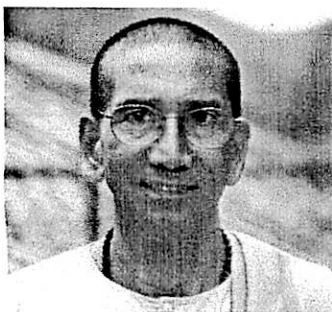
ウパニシャッドの文法的な意味である「うやうやしく近くに坐すこと」は、真摯な弟子が師から学んでいる様子を生き生きと思い起こさせる。その言葉はまた「秘密の教え」を意味する。——確かに秘密である。何故なら、ある教えは、靈的にそれを受け取る準備ができており、それに相応しい者にのみ与えられるのであるから。さらに他の解釈が、偉大な七世紀の註釈家であるシャンカラによって支持されている。すなわち、神の知識——「ブラフマンの知識、無知という足かせを破壊し、最高の到達点である解脱へと導く知識」である。

[午前] ヴェーダとウパニシャッドの全体像

[午後] ムンダカ・ウパニシャッドよりの解説、瞑想

講師: **スワミ・メダサーナンダ**

(日本ヴェーダータ協会・会長)



【講師のプロフィール】

師は世界的に活動しているラマクリシュナ・ミッションの僧である。このミッションは、宗教の調和を信条とし、インドに本部を置く宗教と慈善の団体です。

師の生誕地はインドの西ベンガルであり、その後カルカッタ大学で法律と現代歴史を勉強し、1974年ラマクリシュナ僧団に入団しました。1980年より、ラマクリシュナ僧団の有名な大学の学長を12年間務め、1993年からはミッションの日本支部の会長を務めています。

現在は、インドで培われた靈性、そしてヨーガの道德・心のあり方・宗教的な事柄について、日本の各地・島々で、時には海外にも出かけて、講演を行っています。

今まで、師はたくさんの雑誌に文章を書いてきました。特に、インドの歴史、宗教、文化の中心地として有名なバラナシ(ベナレス)を詳しく調べた師の本は、世界的に評価されています。また、ディヤーナムという瞑想ガイドのCDは、世界で販売されています。

◆日時: 2010年3月7日(日)

◆会費: 当日現金にて申し受け(全日優先)

	一般	会員
午前: 10:00~12:30	3,000 円	2,500 円
午後: 13:30~16:30	3,000 円	2,500 円
全日: 10:00~16:30	5,000 円	4,000 円

◆申込: サトルエネルギー学会秘教科学分科会 神尾まで
※(できればメールにて下記まで)氏名・電話をご連絡下さい
※定員: 50名先着順 (キャンセルの場合、料金は掛かりませんので、必ずご連絡下さい)

◆場所: きゅりあん 5階 第2講習室

JR京浜東北線、東急大井町線大井町下車すぐ
LABIの奥になります (東京都品川区東大井 5-18-1)



主催: サトルエネルギー学会 秘教科学分科会

Tel&Fax: 03-3672-8473 e-mail: kamio@subtle-eng.com